

市指定史跡
浜松城跡
Hamamatsu Castle

浜松市文化財課
Hamamatsu City, Cultural Properties Division



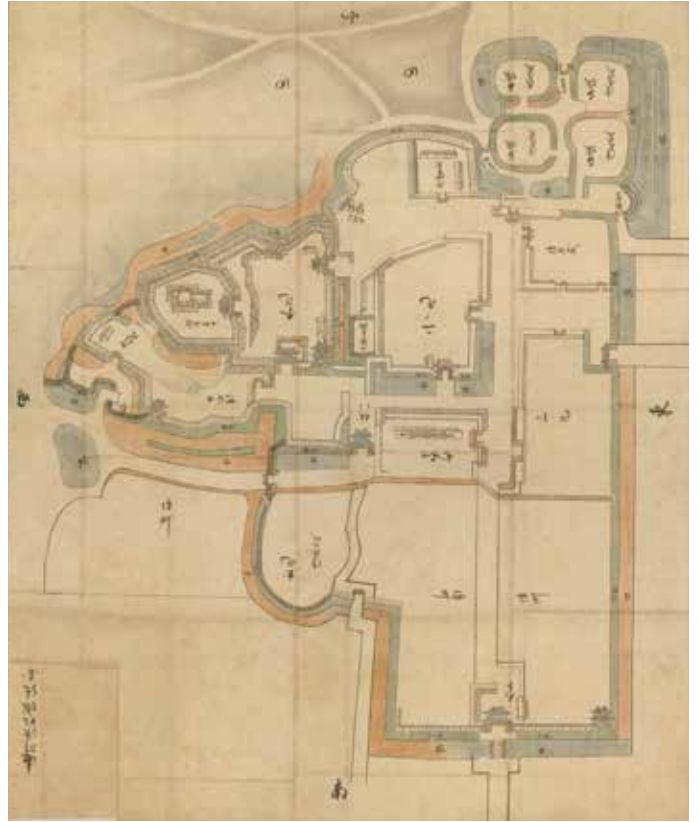
■浜松城跡とは

昭和34年6月18日 指定
令和3年1月28日 追加

浜松城は、三方原台地の東縁にあたる段丘を利用して築かれた城郭で、静岡県浜松市中区元城町とその周辺に位置します。浜松城が立地する静岡県西部地方には戦国時代に築かれた城郭が高密度に分布しています。浜松城は大規模な平野部に接し、経済的な中心地に立地していることが最大の特徴です。

徳川家康の築城として著名な浜松城ですが、浜松城の姿は、今川勢力下で整備された引間城を基礎として、徳川家康による築城、堀尾吉晴による高い石垣と瓦葺き建物を備えた城郭への改築、江戸時代に城主を務めた譜代大名による三の丸の整備などを含めた南向きの城郭への改築と度重なる構造の変更が行われています。

浜松城とその城下町は、現在みられる浜松市街地の基礎になっています。このうち、浜松城の中核部にあたる天守曲輪や本丸を中心とした範囲が浜松市の史跡に指定されています。



遠州浜松城絵図（17世紀）

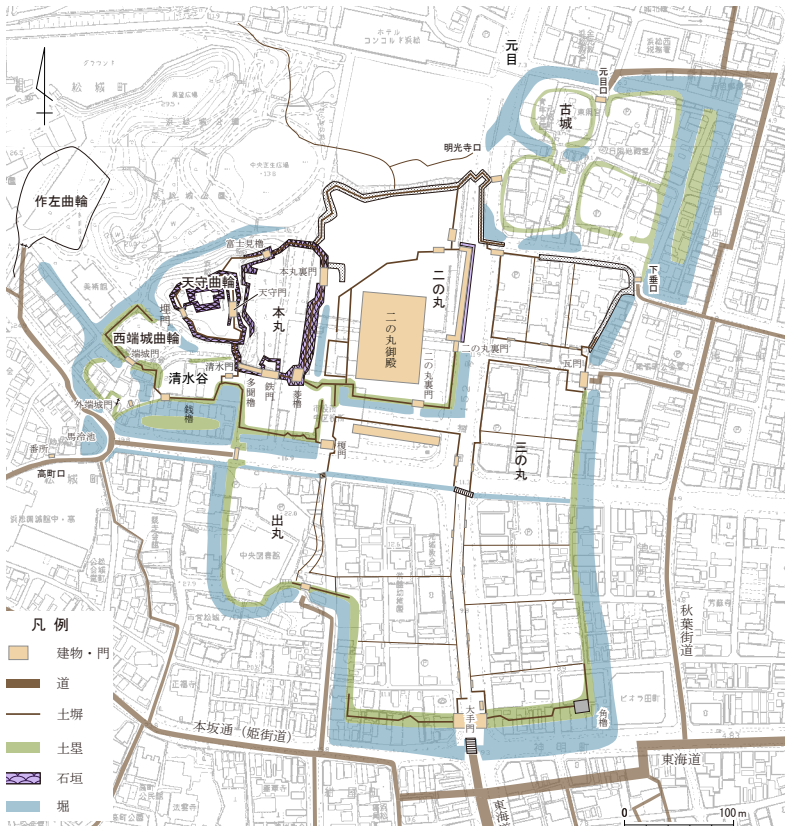
江戸時代の浜松城を描いた絵図です。御殿をはじめとした主要な建物は空白ですが、浜松城の構造や石垣、堀、土塁、櫓や蔵等の建物、塀が表現されています。建物や塀の屋根は瓦葺きと板葺きで色が塗り分けられています。

徳川家康在城期の浜松城とその特徴

徳川家康は、元龜元年（1570）に浜松城を築城したのち、天正9年（1581）にかけてたびたび浜松城を改築しました。堀や土塁に囲まれた空間に、板葺き等の建物が立ち並ぶ城郭であったと考えられます。家康が築いた浜松城の範囲は、江戸時代の浜松城のうち、天守曲輪、本丸、二の丸、古城、西端城曲輪、清水谷、出丸、三の丸の一部にあたる部分と考えられます。

徳川家康在城期の浜松城CG復元図（1570年代）





江戸時代における浜松城の範囲と構造

江戸時代初めの整備によって、浜松城は東西600m、南北650mにおよぶ大規模な近世城郭へ生まれかわりました。城の南端には大手門が設置され、同時期に整備された近世東海道の基軸とされました。かつての引間城は古城として、徳川家康や堀尾吉晴が構築した城郭の中枢部は本丸・天守曲輪等として、江戸時代の浜松城内に取り込まれました。

堀尾吉晴在城期の浜松城CG復元図（1590年代）



天守曲輪南東隅の石垣と瓦集積（16世紀末頃）

堀尾吉晴在城期の浜松城とその特徴

天正18年（1590）、浜松を領有した堀尾吉晴は、徳川家康が築いた浜松城を高い石垣や瓦葺きの建物を備えた城郭へと改築しました。現在、浜松城公園に残る浜松城の石垣は、堀尾氏が築いたものが基礎になっています。

浜松城の最高所の曲輪には、天守台があり、江戸時代に天守曲輪と呼ばれました。天守に関わる記録は発見されていませんが、天守台とその周辺で多くの瓦が採集されていることから、安土桃山時代には、天守が存在したとみられます。現在の復興天守閣は天守台の3分の2程度の規模であり、想定される安土桃山時代の浜松城天守は、天守台の規模を基準に考えると、復興天守閣の1.5倍ほどの大きさであったと推定できます。

発掘調査によって天守曲輪の南側には、高さ3mほどの石垣がめぐっていたことが明らかになりました。天守曲輪南東部の石垣上部は幅が広く、近傍から大量の瓦が出土したことから瓦葺きの櫓が存在したと考えられます。

西暦	城主	地域の支配者	関連する出土品
1565	飯尾賢連・乗連・連竜 (引間城)	今川氏	かわらけ(灯明皿) 瀬戸美濃天目茶碗
1570			
1580	徳川家康	徳川氏	かわらけ(灯明皿) 瀬戸美濃折皿
1590	(城代) 菅沼定政		
1600	堀尾吉晴・忠氏	豊臣氏	堀尾期軒丸瓦 堀尾期軒平瓦
1601			
1609	松平忠頼		
1609	水野重仲		
1619			
1638	高力忠房		軒丸瓦
1644	松平乗寿		
	太田資宗・資次		太田氏桔梗紋軒丸瓦 太田氏桔梗紋軒平瓦
1678			
	青山宗俊・忠雄 忠重		青山氏無字銭紋軒丸瓦
1700			
1702	松平(本庄) 資俊・資訓	徳川氏(将軍家)	本庄(松平)氏 繁九目結紋軒丸瓦
1729			
	松平信祝・信復		
1749			
1758	松平(本庄) 資訓・資昌		本庄(松平)氏 繁九目結紋軒丸瓦
	井上正経・正定 正甫		井上氏井桁紋軒丸瓦
1800			
1817			
	水野忠邦・忠精		水野氏沢瀉紋軒平瓦 (縮尺不同) 沢瀉紋鬼瓦の破片
1845			
	井上正春・正直		井上氏井桁紋 軒丸瓦
1868			



戦国時代の堀から出土した陶器や土器
 本丸南側で発見した堀の中から出土した陶器や土器です。煮炊きに使われた土鍋や瀬戸窯で作られた黄瀬戸の天目茶碗、灰釉の皿等が出土しました。築城時の浜松城の姿を明らかにするうえで重要な成果です。



歴代城主の家紋をあしらった瓦
 浜松城では、江戸時代に城主を務めた太田氏や青山氏、本庄松平氏、井上氏、水野氏が家紋をあしらった瓦(家紋瓦)を使用しています。家紋瓦は、浜松城の改修等の時期を知ることができる重要な出土品のひとつです。

浜松城の歴代城主と主な出土品

CG復元図の地形は、中部技術事務所長の承認を得て、同事務所作成の航空レーザー測量成果を使用したものです。
 (承認番号：令和2年7月8日付国部整中環共第7号)